Harvard Graded Direct Method Teachers' Group
News Bulletin

第10号　英語教授法通信　1961年7月10日

いってらっしゃい

ミス・チャペル

吉沢美穂

日本に生まれ，その一生を日本の英語教育につくされた，Miss Constance Chappell はこの7月カナダに帰国されることになりました。先生は毎月研究会に熱心に出席して，いろいろの質問に答えて下さっていましたが，先生こそ私たちの研究会の生みの親と云うことができるでしょう。

戦争中に帰国された先生は，ハーバード大学で GDM を知り，戦後日本にそれを持って帰られたのが，GDM が日本に紹介されたそもそもの始まりでした。昭和22年頃，先生に教えをうけたものたちが，自分の子供たちに英語を教えて下さるかたはないかと，東京女子大に相談に行きましたが，その時先生は進んで GDM（その頃はまだ誰もこの名まえを聞いたこともなかったのです）を実験してみたいからと，毎週1回，10人ばかりの子供の，日本における最初のクラスが始まったわけです。小学生だったこの子供たちは，もう大学を卒業する年になりました。

毎週見学していた親たちは，この方法がすっかり気に入り，それぞれ勉強や実習を小規模なクラスで始めたのですが，次の年位には YWCA でも GDM のクラスを持つようになり，毎月1回，このクラスを公開して，研究授業，先生の講義という形式で，この研究会が始まったわけです。その時から10数年，研究会を続けて，現状に至ったことは，古くからの会員にとっては感無量のものがあります。

先生の出版された Stepping into the Past は，イギリスの歴史的な場所について Basic で書いた reading material ですが，利用しているかたも多いと思います。

研究会で先生にお会いできなくなるのは淋しいことですが，先生は〝さよなら〟でなく〝行ってまいります〟という気持だと云っておられますから，また日本に来て，私たちの会の発展をゆっくり見ていただくのをたのしみしましょう。

73

ELEC の教科書を見て

吉沢　美穂

各方面に期待を持たれていた ELCE の教科書を，このほど始めて見ることができたので，私どもが一番関心を持っている中学一年用のものについての感想を述べることにする。

しかし，私は教科書そのものを見ただけで，その主旨についての説明も聞いていないし，teachers' guide のようなものも見ていないので，かりに，自分がこの教科書を使うとすれば，という立場から述べるのであるから，私の意見はあくまで GDM の立場からのものであるし，また編集者の意図を誤解した点もあるかもしれない点をおことわりしておきたい。

この教科書を従来わが国で多く使われている他の教科書と比較してみると，いろいろちがう点があるが，全体として，教材の選びかたが，いわゆる文法的な観念（注1）に支配されず，話しことばを主とした実生活に役に立つ英語という点に中心がおかれていることが最大の特長と云うことができる。

教材は指導要領に従ってあるし，本の体裁も，従来の教科書とよくにているし，本文，Note, Exercise などの配置もあまり変った点はないが，機能語の選びかた，その grading には従来の一般の常識を破っているものがある。例えば，Lesson1と2に(注2)，Good morning. How are you? Fine, thank you というような教室内外でのあいさつで始まっているが，Lesson 3 には I, You よりさきに my, your がでてくるし，He, She よりさきに his, her がでてくる (L.4) 同様に America, Japan を教えないうちに American, Japanese がでてくる(L.6) Have は Do you have の形で教えるようになっているし(L.9)，進行形 (counting, going, writing) は Lesson ~~12~~ 19 にでてくる，これは従来の教科書にくらべると大そう早い導入といえることができよう。もっと早く導入したいところだが，ざんねんというほかはない。また Lesson ~~11~~ 12 では，either を too と対照して(either……or は2年) 練習する問題もある。What else do you have? Do you have my……? などが some と一緒に Lesson 11 に出て来るのなども，従来あまり見られないことである。

話しことばを中心としてあるで Exercise にもすべて〝…云ってみましょうという〟ことばが使ってあり，特定の sound を中心とした発音の練習も入れてあることは，前もって想像していたとおりである。日本語訳は，Lesson 20 以降，〝つぎのことを英語で云ってみましょう〟として日本語の文がでてくるほかは，ほとんど用いられていないし，いわゆる文法的な説明もほとんど見られない。

以上述べたことは，すべてこれからの教科書のありかたとして非常に望ましいことであり，教科書の編集にこの程度の自由が認められることは，私共にとっても最大のよろこびである。

しかし，この教科書は一般の中学ではまだあまり実験されていないと思われるので，もし私がこの教科書を使うとしたら当面すると思われるいくつかの問題点を次に列挙してみよう。

Introduction および drill の方法：GDM

（注1）近頃は grammar とは usage も含む広い意味でも用いられているが，ここでは従来のいわゆる学校文法をさしている。

（注2）全体は 25 の Lesson に分かれているので，以下 Lesson の数を，本のどのあたりにでてくるかを判断する基準にされたい。

では SEN-SIT によって教え，Oral Approach のほうは文の意味は日本語を使って教えてもよいという，根本的な方法の違いからくる困難点は，私にとってはどの Lesson についてもおこってくる問題点である。学習がすべて丸暗記，練習のための練習にならないかとの心配がある。しかしこれは教授法の差異からくるものであるから，この教科書の欠点とは云うことはできない。私どもにとっては，おのおのの Lesson の主眼点を GDM 式に導入し，練習して，仕上げの段階としてこの本を使用するほかに方法はないようである。

Reading と writing：この教科書では，入門期の数週間をねらったいわゆるOral introduction の部分を本文の前に出すようなことはしてない。これは私どもの立場から見ても大そうよいことである。しかし編集者は，reading と writing をどの程度にとり扱うことを考えてあるのかは，Exercise（L. 6 以降）に〝書きかたの練習をしましょう〟と筆記体で書いた文の手本がところどころ出てくること以外，本を見ただけではわからない。教科書には出ていなくても誰でも始めに教えている簡単なあいさつを始めに持って来たのは当然のことではあるがもし，教科書の本文にあるからには，このようなあいさつの spelling まで全部おぼえさせなければならないと思い込む教師があったら，大へんなことである。編集者の意図は oral drill にあることはあきらかであるが，どのようにして，どの程度に reading，writing に移るのかを知りたいと思う。

Contractin：予期したように，この本では，導入の段階から contraction が用いてある。例えば，what は what's，I は I'm，you は you're，He は He's という形で導入される。話しことばとしてこれは一番自然な形であることは云うまでもないが，すぐに口ぐせのつきやすい子供の実状に照らして what's are，you're went，He's can というようなくせがつくおそれはないか，また he's-his，your-you're などを混同するおそれはないかということが気にかかる。もっとも進行形や未来形（be going to）にはうまく進展するであろう。

Have：Have（L. 9）を Do you have の形で扱ってあるのはまことに望ましいことであるが，どうせそう扱うのならば，進行形 ~~（L. 11）~~ のあとで，他の動詞の現在形（~~L. 19）~~ と共に教えるところまで，徹底させたほうがよくはないか。なお現在形を usually ということばを使って教えることは，意味を明らかにするために適当なことであると思う。

その他：時間の云いかた（L. 18）は 9：30（nine-thirty）式を本文では用いてあり，half past 式はnote のところに出してある。前者だけでよいのではないか。両方一しょに教えては負担がかかりすぎるのではないか。

I，you，he，she ようさきに my，your，his，her を教えることは，文法的にでなく，生徒の理解の順序という点から問題があるように思われるが，取り扱いかた次第ではうまく行くのかもしれない，冠詞 a のようさきに an を教えたら，"isa" のくせを防ぐことができるかもしれない。これらのことは，導入順序の可非よりも，従来の型を破ったという点に大きな意味があるように思われる。

要するにこの教科書は Oral Approach につごうのよいようにできたものであるから GDM のものにとってはそのまま使用するのは困難であるが，教科書出版界に，また別の意味で型を破った教科書が出現することを約束するものとして大いに歓迎すべきものである。

75

日本の教科書をかたる

Thurston Womack / 片桐ユズル

K：きょうは本国人としての立場から日本の教科書をどう見るかはなしていただきたいとおもいます。

W：It's easier to judge something like this: that is, whether the content is purely American or purely British or mixture of both. Or in some instances, some of these are a sort of bland, I'd say, so general, that you can't identify the culture at all. And of course this kind of writing often is bloodless and uninteresting and dull.

K：たとえば，どんなんでしょう？

W：My reaction to the *New Prince Reader*, Book 2 is that in its discussion of a football game, there's a mixture of, I think, British and American culturalcontent.

"It was a game between our school and South High School." That's good American English.

K：第5課ですね。

W："Was it a good game? Oh, yes. There was a goal for us. Then there were two goals for South High School." Here the trouble begins because in American football the term *goal* is not used but the word *touch-down* is used.

The other thing is the illustration which should support and reinforce the the content of the story obviously is not a picture of a football game. It looks more like a soccer game. The uniforms the boys have on are British Rugby uniforms, I think. The ball is a round ball. The football is different shape.

K：なぜ本国人に見てもらわなかったんでしょうね？

W：And I think this is a kind of unfortunate thing.

In comparison of contents between the *New Prince* and the *New Approach* you see some similarity since there are articles both about American sports, transportation, games, but the noticeable difference, I think, is that in the *New Approach* you have a section on language, on pronunciation, on English writing, languages in the world, foreign languages and English spelling.

K：言語について意識的にさせるということですね。それから，いままで，あまりコミュニケーションとして英語をかんがえていなかった。ようやく，こんど ELEC Bulletin ではじめて，えらい人たちが，そういうことを言い出したのは，それがはじめてじゃないかとおもいます。これは大変なかわりかたです。いままでは，教養としての英語，カザリとして，ひとのしらないことをしってれば，えらいんだという英語。それから，英米の文化を輸入するための方法としての英語で，こっちのかんがえを堂々と世界にむかって説明するという，そういう相互的なコミュニケーションではなかったわけです。ところが，このコミュニケーションというたちばにたつとこんどは，英米だけ相手にはなしをするんじゃなくて，英語をとおして世界各国と理解しあい，なかよくしていこうという。……

W：In other words, English is an international language. I think that's a very good point.（つづく）

76

BASIC の歴史と背景（5）

Basic の目的は大きくわけて考えると，(1)英語を学ぶのに効果的な初歩の段階となること。(2) 国際補助語としての役目を果すこと。(3) 読書力を伸ばす手段とすることの三つとなるであろう。このうち，(3)はちょっとわかりにくいけれども実は一番大切な，しかもBasic の将来性を約束する方向なので，Basic 成立の動機と関係させつつ少し詳しく考えてみたいのであるがその前に(1)と(2)について一瞥しよう。(2)の，国際補助語としての役目については，Ogden は Basic の本が出版されるごとに，その序文で，いろいろ言葉をかえてくりかえし述べている。しかし国際補助語に対する強い願望が大きい動機となって Basic が出現したと言うことはできない。Ogden が国際補助語の必要を痛感していたであろうことに疑わないけれども，Basic を生むに至った根本の動機はもっと言語心理学的な方面にあった。この点 Esperanto ができた事情とは大いに異るところがある。即ち言語機能を考察する過程そのもののうちに次第に Basic の構想が熟したものであることは前に彼と Richards との共著 The Meaning of meaning のことを述べたときもふれた通りである，英語の本質を失うことなく，Basic のような組織が考え得られるならば，これは，既に世界的になった英語を母体としている点からみても，国際補助語として大いに役に立つのではないか考えるに至ったと見るのが至当である。この辺の事情はやはりPsyche Miniatures として数多く出た Basic の本の彼の序文を仔細に読めば納得のゆくことである。言いかえれば国際補助語としての Basic は目的としてはじめからあったのではなく，Basic という組織の必然的結果の一つまたは応用であると考えるべきである。

(1)については，Ogden 自身は，あまりはっきりした仕事はしていない。しかしその中で目につくのは，The Basic News の No. 4 (October-December, 1937) にあらわれた The XYZ of Basic と題する小論文である。その中で彼は Basic が "a First Step to the English of Shakespeare and Shaw" として，どういう態度をとるべきかを述べ，"The development has to be a natural process, and Basic is like a tree which has been well planted and has a good strong stem with branches pointing out in all directions." と書いている。そして無批判に語いをふやして行く愚をいましめ，Basic の語表中に関連語——例えば know に対し knowledge ——を持たない不規則変化動詞 50 語をあげ，Basic から full English への橋わたしの一つとしてこれを学習することを提案している。

尚 Ogden の著書ではないが，Basic から full English へ移行する場合の指導書としては，London の Evans Brothers から出た，From Basic to Wider English がある。これは，1冊50頁から60頁位のうすい本で全部で6冊から成っている。Dr. W. B. Mumford の指導で書かれたとなっているが，Authorized by the Orthological Institute とあるから Ogden の充分の助言のもとで作られたものであろう。この本は普通のリーダーのように読ものが主となり，text に Basic 以外の新語があらわれる度にそれを太文字で印刷し，それらの語の意味用法を Basic で各章の終りに説明してある程度は第巻の終りで大体高校三年のリーダー位であろう。この本はしかし Basic の基本をものにした程度を出発点としているもので英語学習のごく初歩の指導から Basic を利用したものではない。

（この項続く）　　室　勝

Question Box

Q：ＥＰから，ふつうの教科書にうつるのはどうしたらいいのですか？　（M・K生）

A：これはれいへんむづかしい問題で，まだ決定的なこたえはだれからも出ていないようだが，わたしがこれまでに女子美付属中でやったことと，その感想をのべてみたい。

EP I を全部やりたい，というのがわたしの念願である。というのは，EP I の後半で，あのむづかしい，引力の話し，光の屈折，さっ覚，など，もちろん四苦八苦だが，あそこのおかげで，英語をとおして知識を得るとおとい経験が得られるし，英語に非常に多い，動詞と名詞を兼ねた語，（work, swim など）の使い方を十分まなぶことができるからだ。EP I を全部やったクラスに，完了形を教えた，これは，EP II のはじめの数ページが役にたった。そして，字引のひき方，初歩の文法，ほんやくの仕方をおしえて，New Edition Jack & Bettyの III にとびこみ，半年かかって，これをおえ，またＥＰの Book II をやった

次の年には，ＥＰの180ページまでやって，Jack & Betty II にうつった。その次の年には120ページまでで，Jack & Betty をＩからやった。荒川八中の田中先生は50ページまでやって，ふつうの教科をなさったとうかがったが，やはり途中までじゃあ．しないよりはよいが，効果が充分とはいえないというのが田中先生の感じでもあり，わたしの感じでもあった。　（片桐ヨウコ）

Bookshelf

「新教科書の批判と研究」第２部，中学校篇日本教職員組合（非売品，しかし¥50で組合をとおして買うことができる。）12種類の英語の新教科書をとりあげ，精密な比較検討と分析をおこなったもので，教科書をきめるまえに，ぜひよんでおくと．べんり。

Teacher's Pleasure

I went out of my house at five thirty and I came to Sinzyuku at six. The wind came to us. Four buses came to us and I went into one of their buses. Then I and Amano'san were in one seat together. Our bus was coming to Manazuru. I saw stores, cars, persons and trees through my seat's window. Then I was taking my bag's things. Our bus went to Manazuru, but we did not go Manazuru. We had our lunchs at a store of Odawara and I got Odawara's picture at its store. We went into our bus again. I did not see Mt. Fuzi, fishs and shells. Our bus went to Sinzyuku at five. Our bus went to Sinzyuku at short time. Yosida'san and I went to our houses.

Yokohama is not in Tokyo. We went to Yokohama before we went to Odawara.

Hiroko Enomoto

(8th grade, Zyosibizyutu High School)

News

１月例会　吉沢さんの施政方針演説。ELEC教科書のこと，中学現場への応用など，ガヤガヤワイワイとすごした。

２月例会　篠原佳子さんがミシガンでならった構造言語学の初歩をレポートした。そのあとは例によってＥＰのおしえ方をやった。

３月例会　「教育大紀要」第６巻（1960年３月）に発表された小保内氏のテストを女子美術付属中の生徒にやった結果が報告され，This, these に関しては100％正解率であったことや，その他の点でも国立付属やミッションとくらべて，おとらないとのことであった。あとは例によってＥＰ的のおしえ方。

４月総会　投票らしきものにより，昨年度

の会計報告が承認され，次の役員が信任された。代表　吉沢美穂，事務局　片桐ユズル。プログラム委員　伊木英子，升川潔，篠原佳子，東山永。会計　井口喜美子，高木恵三子（西荻のみ）。

月例会の通知を出せとか，これなかった人には前のことをしんせつにおしえてあげるようにとか，いろんな要望で，事務局はいまのstaff ではとてもさばききれないと，ぼやいていた。

第4回公開講演会が4月28日（土）午後，YWCA でひらかれた。出席者160名。ウォマック博士の situation と intonation のはなし，室勝氏の context のはなし，吉沢さんのSENSIT など，硬軟とりまぜて，聴衆からの質問も活パツで盛会であった。

恒例の講習会が5月12日から6月末までルーテルで，ことしは毎金曜に日をかえておこなわれ，約20名――吉沢談によると，みな勉強家ぞろいとのこと。ひとりでも多く，実践して，staff にくわわってくれることをのぞむや切！

特別夏期講習会が7月25日から29日，9:00―12:00，大久保英会話でひらかれる。GDM の理論と実践を，ひとりでも多くの人に参加してもらう目的で，とくべつに発音指導はウォマック博士が多忙なスケジュールをさいて，あたってくださる。講義，吉沢美穂。そのPractice teaching，授業見学，討論などで片桐，升川，篠原さんたちが手つだう。

ELEC も4月から9月まで東洋英和で講習会をひらいており，口頭発表の練習，Pattern Practice などに informant として外人を多く起用した。それにしても週3晩はつらい，と「武者修業中」の升川さんは消耗してる。

5月例会は ELEC 講習会についての升川さんの中間報告，1とrの発音でイジメラレテイル由。発音の点でオドロカサレタ。

6月例会　26日に，女子美を見学。2年生がテレビをじっさいに教室で見て，かっぱつな audience participation をしている。ちょうど番組の方も吉沢さんのスクリプトらしかったが，いつもの授業もあのとおりの由。

1年生は，荒川8中の田中安行さんがgiveをおしえた。生徒をよくつかんだ，おちついた標準的授業で，しいて文句をつければ，絵でなくて実物のビンやグラスをつかえばよかったということ。それから me をまだやってない生徒には，You will give it to me. をいわせなくていいんじゃないでしょうか，というようなことがあった。

研究会の生みの親，ミス・チャペルが7月末に帰国される。7月10日のパーティーにはみんなで参加しましょう。それから写真をほしい人は長谷部さんまで申しこむこと。

某？ベテラン　最近コンタクトレンズをいれた。以前にもまして若さがあふれ，大活躍中。わたしはだれでしょう？

大久保英会話が大々的にGDMを採用，貴重なエネルギーの大半をすいとられて，さらに増クラスの要求をつきつけられたりで，たすけてくれ！

片桐氏　第3学区の組合で教研部長にされシワヨセは Mrs. から，さらに杉高の M 氏，おなじ学区のS嬢，西オギクラスにまで波及ここでもたすけてくれ！

升川氏　宮本綾子さんと婚約した旨，編集部との記者会見においてかたった。この次の会のとき一番幸福そうな人をさがしなさい，それが彼女です。

ELEC Bulletin 創刊号が出たが，なかなかすてきな編集で，われわれに金があったらなあ，と片桐氏をざんねんがらせた。

Harvard Graded Direct Method
Teachers' Group News Bulletin
英語教授法通信
No. 10　　1961年7月10日発行

発行者：Harvard Graded Dircet Method
Teacners Group（代表者　吉沢　美穂）
編集者：片桐ユズル
東京都北多摩郡東村山町公団久米川団地 37の7
Tel.（391）6530・9550 都立杉並高校

Beginning American English……¥450
Modern English (a self-tutor or class text for foreign students.)……¥450
Reading and Word Study……¥540
English Through Pictures, Book 1, 2……¥170 each
Teacher's Handbook for English Through Pictures……¥360
A First Workbook of English（新ポケット版）……¥170
First Steps in Reading English……¥170
Anglophone Records for English Through Pictures,
Series I *and* II……¥5,000each

東京都中央区
日本橋高島屋5階　チャールズ・E・タトル商会　電話 211—5029

昭和37年度用文部省検定済中学校英語教科書

NEW APPROACH TO ENGLISH

日本英語教育研究委員会（ELEC）編著　BOOKI, II, III(A, B, C)

編著者　顧問　岩崎　民平　C.C.フリーズ
粕谷　よし　E.F.ヘイデン
黒田　巍　斎藤　勇　E. ハウゲン
中島　文雄　清水　護　E.クライニアンズ
市河　三喜　高橋　源次　P. オコーナー
石橋　幸太郎　豊田　実　W.F.トワデル

本教科書の特色
1. 言語学習理論に基づき教材の選択配列に特に工夫した。
2. 英語国民が日常使用している生きたことばを採用した。
3. 基本文型と重要単語が自然に習得できるよう反復した。
4. 発音，アクセント，抑揚の組織的習に配慮した。
5. 生徒の精神年齢に最も適するよう内容を精選した。
5. 完璧な Teachers' Guide

ELEC BULLETIN 創刊号
A Greeting　by A.A. Hill
日本の英語教育と世界（座談会）
松本重治 / 中島文雄 / 高橋源次 / 山家保
The Nature of Language　by A.A. Hill
Variation と Selection　山家　保
教科書編集よもやま話　黒田　巍＼牧野勤
B5, 32pp., ¥50(〒¥8)

東京神田局区内
錦町3ノ24　大修館書店

80